

第12回JPCA北海道地方会 開催報告

2026年6月27日(土)、札幌市・かでの2・7において、第12回日本プライマリ・ケア連合学会北海道地方会を開催しました。「多職種で取り組む患者協働～Patient Engagement～」をテーマとし、患者・家族・市民との協働を、日常の医療・薬局・地域実践に生かす視点を共有する場となりましたので報告いたします。

1. 第12回日本プライマリ・ケア連合学会 北海道地方会 開催概要・参加状況

日時	2026年6月27日(土)
会場	かでの2・7 (札幌市)
テーマ	多職種で取り組む患者協働 ～Patient Engagement～
実行委員長	田村 英俊 (寿都そよかぜ薬局 薬剤師)
参加者	137名 (会員97名、非会員40名)
受付内訳	事前受付120名、当日受付17名
アンケート	36件回答 満足度平均4.53/5点 4点以上35件(97.2%)



基調講演「患者との協働とPPI（患者・市民参画）の実現のために」
認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子 様

2. 各企画とアンケート結果からの学び

一般演題（全6演題）、シンポジウム、ウィメンズヘルス講義、ワークショップ、カフェ企画、基調講演を実施しました。

一般演題では、こども食堂を活用した医学生教育、家庭医療診療所の改築、不登校・思春期診療、MDS患者の輸血療法、LGBTQフレンドリーな医療機関、電撃性紫斑病の症例等、地域実践と臨床課題を幅広く共有しました。参加者からは、こども食堂と教育、思春期診療、LGBTQへの取組に強い関心が寄せられました。地域の規模にかかわらず必要性があれば取組を始める姿勢、職員を巻き込むプロジェクト形成、SDHの視点が学びとして挙げられ、自施設・自職種の実践に取り入れたいという意見が多くみられました。

シンポジウム企画では、患者協働を個別の治療場面に限定せず、医療機関のPX/PS、地域における組織のあり方、日々の接遇・コミュニケーションまで広げて捉える視点が共有されました。ウィメンズヘルス企画で

(次のページへ続く)

は、緊急避妊薬の制度や具体的運用に対する理解が深まりました。参加者からは、女性の健康課題への理解を深め、学校薬剤師等の場での性教育にもつなげたいとの声がありました。ワークショップでは、外来・診察室で活用できるリハビリテーションの視点が、患者への説明や支援に役立つ実践的な学びとして評価されました。カフェ企画は、看護師・他職種間の交流の場として機能し、参加者の満足度も高いものとなりました。基調講演「患者との協働とPPI（患者・市民参画）の実現のために」では、患者と医療者を「対立ではなく協働」の関係として捉えること、情報を伝えるだけでなく理解を確かめること、双方向のコミュニケーションを重ねることの重要性が示されました。インフォームド・コンセントにとどまらず、共有意思決定（SDM）への理解を深め、翌日からの診療・薬局業務に生かしたいという感想が多く寄せられました。

3. 総括

本会は137名の参加を得て、多職種が患者・市民と協働するプライマリ・ケアのあり方を実践的に考える有意義な機会となりました。アンケートでの満足度4点以上が97.2%を占めたことから、テーマ設定、企画内容、対面での交流機会は高く評価されました。参加者が自らの医療現場・地域活動を振り返り、具体的な行動へつなげる契機となったことが、本会の大きな成果でした。

ご登壇・ご発表いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、実行委員、北海道ブロック支部事務局、支部役員、関係団体および会場スタッフの皆様に、心より御礼申し上げます。

（文責：田村 英俊 実行委員長／寿都そよかぜ薬局 薬剤師）

2026年度 南郷栄秀先生EBM勉強会 in 旭川医科大学 報告

2026年6月20日(土)・21日(日)、南郷栄秀先生を講師にお迎えし、旭川医科大学で3回目となる「EBM勉強会」を執り行いました。当日は他行事との重複により少人数での実施となりました。しかし、結果的に講師と参加者による双方向の密なディスカッションが実現し、非常に教育効果の高い空間となりました。

2日間のプログラムでは、実臨床に即した多角的なアプローチが行われました。

1日目の土曜日は「製薬会社の製品説明パンフレットの使い方」として、製薬会社のパンフレットの批判的吟味を実施しました。そこから派生して、利益相反（COI）の概念について主体的に考える機会となりました。また、学生にとって関心の高い「総合診療のキャリアパス」についてもご解説いただき、その魅力とキャリアモデルへの理解を深めました。

2日目の日曜日は「EBM診断」に焦点を当て、感度・特異度や尤度比、事前・事後確率の導き方を講義いただきました。さらに、複数の情報源から必要な知見を導き出す「情報検索」の実践を通じ、エビデンスを臨床現場で適切に活用するプロセスを学ぶ時間となりました。

大学の授業では敬遠しがちだった難解な理論も、南郷先生の明快な解説で頭に入りやすくなりました。その結果、

（次のページへ続く）



参加者は終始高いモチベーションを維持して後のワークショップに臨むことができました。

また、2日目の日曜日には本学学長にも会に参加していただきました。レクチャーとワークショップを通して、参加者全員が医療教育におけるEBMの必要性を再認識する機会となりました。

事後アンケートの集計結果からも、内容への高い評価と満足度が示されています。一方で、参加者数の拡大に向けては、開催場所の選定や広報、日程調整などにおいてさらなる工夫の余地があると痛感しました。すでに次年度に向けた日程確保などの準備を始めており、今回の反省を活かしてより発展した勉強会を企画していく所存です。

大変ご多用なスケジュールの中、私たち学生のために熱心にご指導いただきました南郷先生に、深く御礼申し上げます。

(北海道ブロック支部若手医師学生支援委員会 旭川医科大学4年 徳田 桃子)

リレーコラム

毎回、北海道ブロック支部でさまざまなキャリアで活躍されている方たちに気ままに日常をつづってもらっています。今回は、北海道ブロック支部新幹事に選出された阿部計大さんのコラムです。

阿部計大（北海道大学医学研究院 医療政策評価学）

こんにちは。北海道ブロック支部幹事の阿部計大と申します。この度はリレーのバトンをつないで頂き、心より感謝申し上げます。

私は2015年に手稲家庭医療クリニックにて家庭医療専門医を取得した後、腰を落ち着けて研究方法を学ぶために公衆衛生学の博士課程に進みました。学位取得後に留学を経て2024年度から北海道大学に着任し、日本のプライマリ・ケアに関連した医療政策・医療経済学的な研究と教育を行っています。このコラムでは一人の家庭医が大学でどのような日常を送っているのかをご紹介します。

皆様も日々の診療でお気づきの通り、日本の医療介護提供体制の改革が進んでいます。人口構造の高齢化が進み、人口減少が進む地域で、住民が質の担保された外来医療、入院医療、在宅医療、介護にアクセスできる体制を如何に確保するのが課題です。今年度より北海道庁は2040年を見据えて「新しい地域医療構想」の在り方の検討を始めており、担当官と定期的な打ち合わせを行いながら、検討に必要なデータを提示しています。近年では、政策立案の根拠となる数値を引用するEvidence-Based Policy Makingが浸透してきており、研究者としては嬉しい反面、分析作業が忙しくて猫の手も借りたい状態です。

研究においては、従来のランダム化比較試験や前向きコホートのような大掛かりな研究だけではなく、行政や医療機関等が業務上集めている既存のデータを分析して知見を見出すことが増えています。例えば、保険者のレセプトデータ、人口動態統計(死亡診断書)、国勢調査などを合わせて使用します。近年は様々なデータがデジタル化されており、コンピュータの演算能力が高まっていることから、大きなデータを複

(次のページへ続く)



複雑な数式で分析することが可能となっています。それによって、プライマリ・ケアに関する有意義なエビデンスを得られる可能性があります。

教育では主に、医学生のパブリック衛生学の授業で医療経済学や医療関連法規、地域医療計画について教えており、社会医学実習では4年生4名に手稲家庭医療クリニックでの診療を経験してもらい、地域での家庭医の役割について学んでもらっています。大学院生には、観察データを用いた因果推論的手法（自然実験等）や機械学習的手法を用いた効果の異質性の分析について8コマの授業を行っています。

このように私の日常は研究と教育に費やしてはいますが、やはり私にとって家庭医としての臨床は研究・教育の原点であり、古巣で診療も続けさせて頂いています。これからもプライマリ・ケアに関する研究を盛り上げていきたいと考えていますので、公衆衛生大学院修士課程(MPH)や博士課程への進学、研究のご相談などお気軽にご連絡頂けますと幸いです。尚、大学で総合診療に興味のある医学生については、今後も学会や道内の皆様のご協力を頂きながら育てていきたいとも思っています。

何卒宜しくお願い申し上げます。

北海道ブロック支部 広報委員会 編集後記

広報担当の小山裕基（手稲家庭医療クリニック 専攻医4年目）です。今年度も北海道支部の広報に携わせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年も11月14日に第13回プライマリ・ケアフォーラムが開催されます。実行委員長の中駄先生を中心に準備が進められており、今年もワークショップ、学術集会、講演会などに参加出来るのが今から楽しみです。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください！

末筆ではございますが、ご多忙の中、ご執筆いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。